

病害虫発生予察情報

6月月報

令和4年7月15日
東京都病害虫防除所

1 気象概況（東京都・東京管区气象台提供）

2022年 6月	気温						降水量 (mm)		日照時間 (h)	
	最高		最低		平均		平年比		平年比	
	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	本年	(%)	本年	(%)
上旬	24.1	-1.5	15.8	-0.7	19.4	-1.3	71.5	160	50.1	96
中旬	25.3	-0.9	17.0	-1.2	20.9	-0.8	21.5	31	38.1	97
下旬	33.0	5.9	23.0	3.4	27.9	5.0	10.5	20	79.1	257
平均	27.5	1.2	18.6	0.5	22.7	0.9				
合計							103.5	62	167.3	135

※ 観測地：東京都府中市 気象庁気象観測所

※ 平年差（比）：平年値（1991～2020年の平均値）からの差（比）

<天候概況>

上旬：期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。期間の後半は前線や気圧の谷の影響で雨や曇りの日が多く、大雨の日もあった。なお、関東甲信地方は6月6日ごろ梅雨入りしたと見られる（速報値）。

中旬：前線や湿った空気の影響で、曇りや雨の日が多くなった。

下旬：はじめは梅雨前線の影響で雨が降ったが、その後は太平洋高気圧に覆われ晴れた。25日に今年初めての猛暑日となり、その後も猛暑日が続き、30日の日最高気温が36.4℃となった（統計開始以来6月の日最高気温1位）。なお、関東甲信地方は6月27日ごろに梅雨明けしたと見られる（速報値）。

2 作物生育概況

(1) イネ

田植えは6月上旬頃にほぼ終了し、生育は順調である。

(2) 野菜

果菜類：6月後半の高温・乾燥の影響でトマトは日焼け果、キュウリでは曲がり果等の発生が増えた。トウモロコシは順調である。

葉根菜類：全般的に生育は順調である。

イモ類：ジャガイモは収穫期に入り、例年よりやや早い。

(3) 果樹

農総研の果樹圃場（灰色低地土・露地）におけるブドウ主要品種の開花期と平年差（カッコ内）は以下の通りであった。巨峰および安芸クイーンで開花始・盛期は平年より3～4日遅かった。高尾で

開花始・盛期は平年より1～2日早かった。

巨 峰：開花始5月30日（+3日）、開花盛6月3日（+4日）

安芸クイーン：開花始5月30日（+3日）、開花盛6月3日（+4日）

高 尾：開花始5月24日（-1日）、開花盛5月26日（-2日）

（4）茶樹

6月末の高温・乾燥により一部で葉焼け症状が発生し、今後の生育が遅延する可能性がある。特に幼木で被害が大きかった。

3 病害虫の発生概況

（1）イネの病害虫

いもち病（苗）	< やや多 >	発生はやや多かった。
ばか苗病	< 少 >	発生は少なかった。
イネミズゾウムシ	< やや多 >	発生はやや多かった。
ツマグロヨコバイ	< 少 >	発生は少なかった。
ヒメトビウンカ	< 少 >	発生は少なかった。
セジロウンカ	< 少 >	発生は少なかった。

（2）果樹の病害虫

ナシ

黒星病	< 少 >	発生は少なかった。
黒斑病	< 少 >	発生は少なかった。
アブラムシ類	< 少 >	発生は少なかった。
ナシヒメシンクイ	< 並 >	フェロモントラップへの誘殺数は平年並であった。

果樹共通

チャバネアオカメムシ	< 多 >	予察灯及びフェロモントラップへの誘殺数は多かった。
クサギカメムシ	< やや多 >	予察灯への誘殺数は多く、フェロモントラップへの誘殺数は平年並であった。

（3）茶樹の病害虫

カンザワハダニ	< 少 >	発生は少なかった。
チャノコカクモンハマキ	< 並 >	フェロモントラップへの誘殺数は平年並であった。
チャハマキ	< やや多 >	フェロモントラップへの誘殺数はやや多かった。
ナガチャコガネ	< 並 >	予察灯への誘殺数は平年並であった。

（4）野菜の病害虫

ジャガイモ

疫病	< 少 >	発生は少なかった。
----	-------	-----------

トマト

モザイク病	< 少 >	発生は少なかった。
灰色かび病	< 少 >	発生は少なかった。
葉かび病	< 少 >	発生は少なかった。
疫病	< やや少 >	発生はやや少なかった。
白ぶくれ症	< 並 >	発生は平年並であった。
コナジラミ類	< やや多 >	発生はやや多かった。
オオタバコガ	< 並 >	発生は平年並であった。

キュウリ

うどんこ病	< やや少 >	発生はやや少なかった。
べと病	< 多 >	発生は多かった。
アザミウマ類	< やや少 >	発生はやや少なかった。

ナス

アザミウマ類	< やや少 >	発生はやや少なかった。
ハダニ類	< やや少 >	発生はやや少なかった。

コマツナ

白さび病	< 並 >	発生は平年並みであった。
炭疽病	< 少 >	発生は少なかった。
コナガ	< やや少 >	巡回調査での発生は少なく、フェロモントラップへの誘殺数は平年並であった。

カブラハバチ	< 少 >	発生は少なかった。
アザミウマ類	< やや少 >	発生はやや少なかった。

スイートコーン

アワノメイガ	< 並 >	巡回調査での発生はやや多く、フェロモントラップへの誘殺数は平年並であった。
--------	-------	---------------------------------------

ネギ

べと病	< 少 >	発生は少なかった。
さび病	< 多 >	発生は多かった。
ネギアザミウマ	< やや多 >	発生はやや多かった。
ネギハモグリバエ	< やや少 >	発生はやや少なかった。

キャベツ

菌核病	< 少 >	発生は少なかった。
黒腐病	< 少 >	発生は少なかった。
コナガ	< やや少 >	巡回調査での発生は少なく、フェロモントラップへの誘殺数は平年並であった。

ヨトウガ	< 少 >	発生は少なかった。
------	-------	-----------

(5) 花きの病害虫

花き共通の病害虫

灰色かび病	< 少 >	発生は少なかった。
-------	-------	-----------

(6) 植木の病害虫

街路樹など

チャドクガ

<やや少>

発生はやや少なかった。

(7) 島しょの病害虫

三宅島：施設栽培でコナジラミ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類の発生が多かった。

御蔵島：茎ブロッコリーでコナガ、トマトでヨトウの発生が多かった。

八丈島：メロンでウリハムシの発生がやや多かった。

小笠原：父島はかんきつ類でかいよう病の発生が多かった。母島はオクラでアジアベッコウマイマイの発生が多かった。

その他の地域では多発生の病害虫は認められなかった。

4 ミバエ類等侵入警戒調査

チチュウカイミバエ

<誘殺なし>

ウリミバエ

<誘殺なし>

ミカンコミバエ種群

<誘殺なし>

コドリンガ

<誘殺なし>

病害虫防除所ホームページ

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/nourin/shoku/anzen/boujyo/>

病害虫の発生予察情報、発生状況、防除方法、防除のポイントなどをお知らせしています。